



カナダからの No.10 風にのせて

英語指導助手 / リンズィー・マクドナルド

Minding my Manners

When I first arrived in Japan, I wasn't new to eating Japanese food or eating with chopsticks. My friends and I liked to go to Japanese restaurants in Canada and while my family seldom used chopsticks at home, I'd been eating with them in restaurants for years before I came. Liking the food and being able to use the utensils are just part of the experience of sitting down at the table though. Japanese table manners took some getting used to.

It seems sometimes that Japanese table manners are the opposite of Canadian. Of course that's not to say that a particular manner system is better than the other, just each is suited to the usual food and presentation in the respective country. When I lived with my host family in Osaka I remember being a little overwhelmed at all the dishes in front of me. My host mother told me to pick up the dishes and bring them to me. Eating a meal at home in Canada, I had to go to the plate; it was always too big to pick up and I would have been scolded for trying. As for eating things like ramen ... you're SUPPOSED to slurp the noodles?! I loved slurping when I was little even though my mother always told me to stop. Making noise in Canada isn't polite ... no matter how much fun. I got the last laugh though. When Mom came to Japan, I took her for ramen. Take that Mom! You're SUPPOSED to slurp!

マナーに気をつける

初めて日本に来たときは、もう日本食にも箸（はし）にも慣れていました。家族はあまり箸を使いませんでしたが、友達とはよく日本食のレストランに行ったものです。でも箸だけが和食マナーではありません。実際には他にもいろいろ慣れる必要がありました。

時として日本とカナダのテーブルマナーは正反対と思えることがあります。優劣があるわけではないのですが、それぞれの国にあった食べ物とその出し方があります。大阪にホームステイしたときには、品数にちょっと圧倒されそうでした。大阪の「お母さん」は「小皿は口元に運んで食べなさい」と言いました。カナダでは、皿を口元に持ってくることはしません。皿が大きすぎるし、第一そんなことをしたらしかられます。ラーメンのようなものには、「麺をすする?!」それがどんなに楽しいことでも、カナダでそんな音をたてるのはマナー違反です（子供の時は食べ物をすするのが楽しくて、お母さんにいつも止めるように言われていました）。でもおかしいことがありました。母が日本に来た時のことです。ラーメンを食べに連れて行ったのです。「だからさあ！お母さん。ここではすするのが正しいんだってば！」

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

食べ物をすすることを slurp と言います。発音も暗い感じで「スラブ」。これだけは「海外でやってはいけない」と習いました。でも私は、日本食は別だと思えます。ラーメン、そば、うどんなどは、ふーふー、言いながら ツルツルッ、とすする。そうすることで、おいしいダシの香りが口中に広がります。それはそれで正しい。日本に来た外国人には、思い切ってすするようにぜひ教えてあげましょう。ただし、欧米人は猫舌が多いので、気をつけましょう。

緑がきらきらして、花が一斉に咲くこの季節、翻訳や通訳の仕事が増えてくると「シーズンが始まった」という気持ちになります。中学校でも新しい生徒との出会いがあります。私が英語のできるエリートを育てようとしている、と思っている人もいます。45分間や50分間という時間の中でできることは限られています。とにかく全員希望の高校へ行けるように、と思っています。

「これは固有名詞だから、大文字で始まるよ」とか「名詞を修飾するから形容詞ね」と言われた時、それは生徒の頭の中で起こります。「固有名詞」とか「修飾」という言葉の意味が分からないと、頭の中に霧がかかってしまうのです。これがその子にとっての「誤解語」です。そのままにしておくと、そのモヤモヤが頭の中で広がって、ついには思考停止が起こります。脳が苦しんで考えることを止めてしまふのです。

新学期が始まりました。新しい生徒たちに「『固有名詞とよく聞くけれど、実は意味が分からない』という人はいますか」とたずねてみました。素直に手を挙げてくれる生徒が結構いました。その正直なことがうれしくて胸が熱くなりました。「そのモヤモヤをすっきりしてあげたい」という気持ちが入みあげてきます。私も同じように分からなくなつたからです。とりあえず「授業中、目の前の子供たちが誤解語で頭がいっぱいにならないようにすることが何より大事」と思っています。

英語教育指導員 宮地晶子の
エイゴのマナビカタ
第61回
誤解語